

「芸術」に一步でも近づきたい

今野 義和

(株式会社北日本花火興業 代表取締役・花火師)



■ 起り

秋田県の花火は神社の祭礼と関係が深く、曾祖父が当時、仙北郡西部地域の神社祭礼の花火師として、明治32年（1899年）に花火の製造販売業の許可を得てから、126年になります。花火は秋田県南部の産物であり、現在も花火事業所の殆どが県南地域に所在しております。花火文化の初期の振興は、主に祭礼花火と競技会にあります。現在は「大曲の花火」が日本トップクラスの規模と内容で人々を魅了しておりますが、私が子供の頃は、横手、能代、本荘なども全国競技大会形式を交えての花火大会でした。また「大曲の花火小史」によりますと、明治時代、当大仙市神宮寺地域には花火師も多く、地元八幡神社の祭礼には、拳って自慢の花火を打ち上げていたということです。町内を巡るお神輿行列の先頭が花火師で、各家々の玄関前で花火を打ち上げ、厄除けを担ったとの記録もあります。このスタイルは昭和の中期まで続けられ、花火師は祭礼には欠かすことのできない役務を担っており、熱狂的な花火好きが多い地域であったことがわかります。現在も花火に寛容な地域で大変ありがたく思っております。



(昭和31年 家前での花火)

(出典 神岡町立町40周年記念誌「写真にみる神岡のあゆみ」より)

■事業化・法人化

現在、私で4代目になりますが、初代や2代目の頃は、花火製造は農家の副業であり、雪が消え、日照時間が増してきて、農作業の合間を縫っていよいよ家族総出で花火作りが始まる、そんな時代であったようです。当時からあった競技会は、上位入賞の目標はもとより、新しい技法の披露の場、習得の場であり、昔も今も技術振興の貴重な場であります。

昭和の中後期になりますと、先代は通年製造、通年雇用を掲げ、工場を増設し専門に切り替えます。花火のオフシーズンである冬期は、主に米国のテーマパークや独立祭向けの輸出用花火玉の製造を行い、1984年ロサンゼルス五輪開会式や1986年ニューヨーク自由の女神100年イベントの花火玉も製造しました。これら多種多様な製造依頼の経験が、現在の製造法の礎となっております。

また、1989年頃は「ふるさと創生」の名のもと、全国的に「ご当地イベント」が盛んになり、「集客の王様」といわれる花火の需要が増えてきました。事業的にも個人経営から法人へと、1990年（平成2年）に地元に馴染んだ「今野煙火」から、活動の場を広げていこうとの決心のもと「北日本花火興業」へ社名を変更、いささか大風呂敷を広げたような名前に生まれ変わりました。

■創造花火に魅せられて

全国花火競技大会（大曲の花火）はもうすぐ100回大会を迎えます。幸いにもこの地に生まれ育ったことで、たくさんの最新技術の花火、芸術性豊かな花火を目にすることが出来ます。ものづくりの観点から、どのようにして作るのか興味津々、DNAが疼く訳です。全国の花火師にとってもここ大仙市大曲は「聖地」であります。

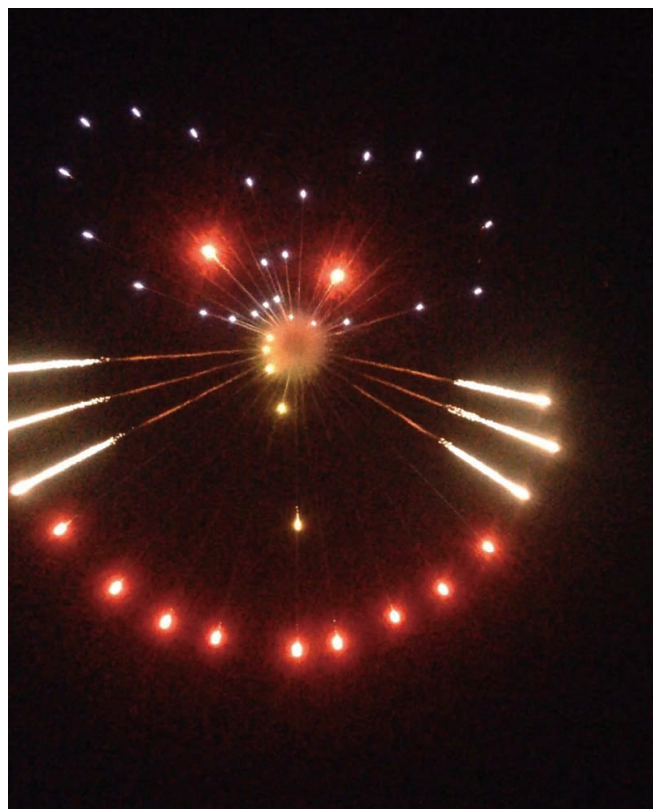
ここ「大曲の花火」は全国に先駆けて「創造花火」という花火形態を打ち出しました。私が生まれた昭和39年のことです。美しさのルールが定まっている菊型花火に対して、創造花火は自由な発想（スタイル）の花火です。新型花火、創作花火、幻想花火、似たような言い方はありますが、ここ大曲にあつては、「創造花火」にこだわっております。題名「ピタゴラスの美学」、「花よもう一度」、「帰ってきた赤とんぼ」、「ハレー彗星からの使者」等、これらは後世に語り継ぎたい先人たちの傑作です。その瞬間に立ち会えたことは、たいへん幸運なことであり、これらの作品の柔軟な発想力や工夫、それらを生み出す花火師の生き様を目標に、私どもも積極的に「創造花火」に取り組んで参りました。

今ではスタンダードとなっている、音楽とともに花火を打ち上げるスタイルや、ワイドな展開をみせる打ち上げ技術、丸形に拘らない図柄を出す花火（型物花火）等、地元同業者らと切磋琢磨し合いながら、近代花火の一端を築き上げてきたと思っております。絵柄を出す花火（型物花火）は、外国の花火メーカーに大量にコピーされました。「盗作するに価値があるという証拠」と思い、争うだけ時間の無駄、それより次の新作を生



むことに傾注しています。

令和6年11月、厚生労働省から花火師としては全国で10人目となる、卓越した技能者として「現代の名工」の表彰を賜りました。ものづくり業として名誉な表彰ですが、称号の重責をひしひしと感じております。「創造」に果てはありません。常に研究、創意工夫の心構えを大切に、観客の皆様の「ワクワク感」を創り上げて参りたいと思っております。



■先代からの訓え「欲張らないこと」

とにかく人間は欲張りです。企業も「発展」という名のもとに「あれもこれも」といろいろ多角化や、多商品化を考えます。本来あるべき姿かもしれませんが、自身の花火の経験から申し上げると、いろいろ盛り込むことにより、伝えたい（見せたい）焦点がぼやけてしまいます。事業においても、無理はどこかに歪を生じます。管理能力にあった、身の丈相当の事業経営に徹したいと思っております。火薬の颜色を窺っての作業が毎日です。火薬を加工する技術はそう簡単ではありません。

■未来の笑顔を創造する

私どもはメーカーでありますので、花火玉1個〇〇〇円の販売営業もしますし、花火大会一興行〇〇〇〇万円の販売もします。また、メーカーでありながら消費者でもありますので、花火玉が消え去るまでその業務を担います。これは食事を提供する事業者と似ていると思います。例えるなら宴会場とレストランを兼ね備えた形態です。日時、予



算の定まった宴会は、花火大会に例えられます。不特定の方が訪れるレストランは、個別納品の花火。お料理コンクール（花火競技大会）も技術向上には欠かせません。

食事提供で大切なのは「衛生的であること、おいしいこと」、花火でいうところの「安全であること、美しいこと」であります。その上で、皆様に気に入っていただけるような「味の追求」、「ボリューム」、「演出」、そして「その空間の提供」です。これは、観客、主催者、スポンサー、花火師の満足度によります。全ての方々が笑顔になれる、そんな空間を提供するのが、私どもの使命と考えております。

花火の材料である火薬は、「エネルギー物質」という科学のカテゴリーに分類されます。科学分野に限らず、多くの人々に「活力」、「喜び」、「癒し」、そして「感動」を提供するエネルギー産業でありたいと思っております。これらの対価が、私どもの営業であり、維持が経営であると感じております。ご依頼いただく花火大会主催者や、観覧のお客様の笑顔指数が、わが社への経営評価との認識で、信用信頼を積み重ねて参りたいと思っております。

■「芸術」に一步でも近づきたい

「日本の花火は泣ける」と言われます。世界中の殆どの花火ショーは娯楽（エンターテインメント）の類ではありますが、私どもの花火を評して「お手紙を添えているようだ」とおっしゃる方がおります。

こんなお手紙をいただいたことがあります。その時の花火は「異界に咲く花たち」という作品でした（この世に存在しない別世界に咲く花というイメージ）。

手紙は、突発的な急病で息子さんを亡くされて間もないお母様からでした。30分程前まで普通に会話をしていたとのこと。無情な出来事で、やるせない日々を過ごしていた頃、花火は魂の供養になるような気がして、花火大会に出かけてみたそうです。そこで「異界に咲く花たち」をご覧になられたとのこと。その花火で、息子さんの魂もご自身のどこにも持って行きようのない気持ちも昇華され、救われたような気がしたと。それまで花火は楽しく明るいものだと感じただけでしたが、魂の鎮魂にもなることを身をもって感じた、一生忘れないと綴っておりました。

花火は何かが伝わる瞬間があります。我々の「想い」が光を通して繋がるのです。その時、花火は「芸術」になります。皆様の「感動」に共振するわけです。

たかが花火、されど花火。多くの方々に愛される花火を「安全に美しく」皆様の心に届けるよう、日夜工夫に邁進して参りたいと思っております。今年の夏も花火をお楽しみください。



会 社 概 要

- | | |
|------------|---|
| 1 会 社 名 | 株式会社北日本花火興業 |
| 2 代 表 者 | 代表取締役 今野 義和 |
| 3 所 在 地 | 〒019-1701秋田県大仙市神宮寺字下金葛320 |
| 4 電 話 番 号 | 0187-72-2205 |
| 5 F A X | 0187-72-2215 |
| 6 U R L | https://kitanihon1899.com |
| 7 創 業 | 明治32（1899）年8月 |
| 8 設 立 | 平成 2（1990）年5月 |
| 9 資 本 金 | 2,000万円 |
| 10 従 業 員 数 | 23名（2025年5月現在） |
| 11 事 業 内 容 | 花火の製造販売、花火大会打上げ、イベント演出効果 |
| 12 経 営 理 念 | 火薬文化の平和的、芸術的発展と、お客様の幸福度向上に貢献し、
信頼される企業を社員総出で目指します |